

令和2年度 第2回 小牧市民健康づくり推進協議会 議事録

日 時	令和2年10月1日(木) 15時～16時
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>森 雅典 小牧市医師会会長 高野 健市 小牧市医師会副会長 三輪 雅一 小牧市医師会副会長 林 芳樹 小牧市医師会理事 三輪 貴彦 小牧市医師会理事 飯田 資浩 小牧市歯科医師会会長 木全 勝彦 小牧市薬剤師会会長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長 山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長 荒井 洋子 小牧市社会福祉協議会理事 林 順子 女性の会(会計) 青山 恵史 区長会連合会副会長(北里地区会長) 谷田貝 将典 小牧市議会福祉厚生委員長 中川 宣芳 小牧市教育長 西尾 朋子 小牧市保健連絡員役員</p> <p>【関係者】</p> <p>佐々木 成高 小牧市歯科医師会副会長</p> <p>【欠席委員】</p> <p>木村 隆 春日井保健所 健康支援課長</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 健康生きがい支え合い推進部長 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部次長 泉 重雄 保健センター所長 野口 弘美 保健センター所長補佐 森 里加 保健センター 成人保健係主査 宮田 祐子 保健センター 成人保健係主任 長谷川 真弓 保健センター 成人保健係保健師 森下 大輝 保健センター 成人保健係保健師 河野 友里 保健センター 成人保健係保健師 永井 政栄 健康生きがい推進課長 岩下 貴洋 健康生きがい推進課 健康政策係長 小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主任</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例(案)に関するパブリックコメント実施結果</p> <p>資料2 (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例に定める主な内容</p> <p>資料3 小牧市民健康づくり推進協議会推進部会の取組み</p>

1. 開会

(1) 交代委員の紹介

- ・谷田貝委員あいさつ

(2) あいさつ

- ・入江部長あいさつ
- ・森会長あいさつ

2. 議題

(1) (仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例(案)について

- ・事務局より、「資料1:(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例(案)に関するパブリックコメント実施結果」及び「資料2:(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例に定める主な内容」を用いて、説明。
- ・(仮称)小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例に定める主な内容について、「母体の健康の保持及び胎児の健全な発育を図るため、妊産婦を対象とした歯科疾患の予防のための施策」と「8020(はちまるにいまる)運動(80歳で自分の歯を20本以上保つことを目的とした取組をいう。)を推進し、各世代に応じた歯と口腔の健康づくりに取組み、健康寿命の延伸を図るための施策」の2項目が追加となった経緯について、歯科医師会飯田会長である飯田委員より説明。

飯田委員)

- ・この条例の策定にあたっては、小牧市歯科医師会が全面的にバックアップさせていただいている。
- ・小牧市では市長の名のもと、8020運動を展開していただき、80歳で20本以上歯が残っている方には、記念品の贈呈と表彰を行っていただいている。
- ・8020運動については、愛知県歯科医師会が日本歯科医師会へ提言し進めてきたものであり、この30年で認知されてきたところである。そういう経緯もあり、「8020」という文言を条例に入れていただきたいとお願ひした。
- ・8020運動は、妊産婦・胎児を含めた乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期を通じた運動であることから、胎児及び妊産婦を対象とした歯科疾患の予防について文言を入れさせていただいた。
- ・質疑、意見なし

(2) 小牧市民健康づくり推進協議会推進部会の取組みについて

- ・事務局より、「資料3:小牧市民健康づくり推進協議会推進部会の取組み」を用いて、説明。
- ・質疑、主な意見は以下の通り。

【栄養・食生活】

山田委員)

- ・報告に、寿学園発行の「寿学園だより」にフレイル予防について情報を掲載したとあったが、9月30日に発行された「寿学園だより」にはその情報は掲載されておらず、校正の段階でカットされたようである。
- ・次号に掲載されるかも未定であり、一度寿学園へお問い合わせいただきたい。
- ・「寿学園だより」については、新型コロナの影響もあり、今年度、2回限定で発行する予定となっている。来年度の発行予定も未定である。

- ・そこで、提案であるが、小牧市老人クラブ連合会が年2回発行している「会報小牧労連」に掲載してはどうか。
- ・次に、フレイル予防個別栄養相談の基準における「BMI」の記載について、18.5以下となっているが、18.5未満とすべきでないか。18.5以上25未満は普通体重となっていると思う。
- ・高齢者への低栄養予防に向けた普及啓発について、生涯学習のまちづくり出前講座に加えて普及啓発を行ってはどうか。

事務局)

- ・フレイルに関する情報発信について、小牧市老人クラブ連合会が発行される会報誌への掲載については検討させていただく。
- ・フレイル予防個別栄養相談の基準におけるBMIの記載については、持ち帰り、栄養士と相談し、検討させていただく。
- ・出前講座におけるフレイルの啓発については、事務局として考えていることでもあり、前向きに検討させていただく。

森会長)

- ・「寿学園だより」におけるフレイル情報が未掲載となった理由について、何か知っているか。

事務局)

- ・担当課に確認、報告させていただく。

⇒ 担当課に確認したところ、紙面の都合もあり、掲載されなかったようである。現時点では、次回発行の「寿学園だより」に掲載できるか分からないが、引き続き、掲載に向け、働きかけをしていきたい。

林委員)

- ・栄養バランスの関係で、BMIを使用しないとのことであるが、学校健診のなかで成長曲線が使えたらと感じる。確かに学校では肥満度しか使われていないが、BMIについては、部会で検討されたのか。

事務局)

- ・小学生の健康手帳で活用されている肥満度を活用していかうかと検討している。
- ・具体的に決まったことではなく、見てわかりやすいものにしていきたいと考えている。

林委員)

- ・体重等の相談があるときは、BMIを使うこともある。
- ・幼児期で使われるカウプ指数はBMIと計算式が同じである。肥満度は身長における標準体重から割り出すので、身長と体重のバランスといった視点でBMIを合わせて使ってもよいのではと思う。

事務局)

- ・貴重なご意見として、参考にさせていただく。

【身体活動・運動】

森会長)

- ・コロナ太りと言われているが、身体活動や運動について、コロナ禍で、高齢者が集うこともできず、実施が難しい状況になっている。これについて、どう考えているか。

事務局)

- ・資料3の表紙裏面にあるが、4月当初はコロナの影響により、外出が困難になったこ

とから、「栄養・運動・口腔」に関連した情報を発信したところである。

- ・ 市地域包括ケア推進課では、リハビリテーション連絡会の協力のもと、小牧市の介護予防体操である「こまき山体操」について、ケーブルテレビで放映したり、市の事業についても様々な形で情報を発信してきた。

高野委員)

- ・ ウォーキングアプリ alko について、何人の方が利用されているか。

事務局)

- ・ 実ダウンロード数で言うと 11,000 人を超えている。
- ・ 実稼働数では、3,000 人を超える規模でご利用いただいている状況である。

高野委員)

- ・ 稼働して何年目になるのか。

事務局)

- ・ 平成 28 年 10 月からリリース開始であるため、4 年経ったところである。

高野委員)

- ・ 1 万人の稼働数を目指してほしい。

事務局)

- ・ コロナ禍により、なかなか外に出る機会がない方でも気軽に健康づくりに取組めることから、ウォーキングが注目されたこともあり、今年度は、alko を活用したチャレンジ企画を連年より、早いペースで実施してきたところである。
- ・ その効果もあり、今年度だけでもダウンロード者数が 1,000 人以上増えている。
- ・ 今後も、様々な方に興味を持っていただき、ご利用いただけるような企画を打ち出すことで、稼働数の増加を目指したい。

【休養・こころの健康】

- ・ 質疑なし

【たばこ・アルコール】

小島委員)

- ・ COPD は肺の生活習慣病といわれている。
- ・ 国の第 2 次健康日本 21 計画の中では、この COPD が生命損失と医療経済に大きな影響を与えることから、見過ごせないということで対策が必要な生活習慣病の一つとされている。
- ・ 国では、COPD の認知度を 2025 年までに 80%以上にすることを目標にしているが、実際は 20%程度となっており、既に目標達成が難しいという状況である。
- ・ 日本医師会や関連会社などが COPD 啓発プロジェクトを展開しているが、市としてできることとして、広報などへの掲載から始めていただくことは重要と考える。
- ・ 市民啓発のイベントはコロナの関係で難しいと思われるが、他市では、特定健診の中に「COPD 健診」と称して、COPD に関する質問項目を加え、COPD の認知度の向上と早期発見に成果が得られたという報告も聞くが、ただ、拾い上げをすると大量の方がスクリーニングされ、かかりつけ医の負担となることが考えられるため、導入に向けては、慎重な判断が必要と感じる。

森会長)

- ・ 外国人向けの情報誌について、産業医をやっていると外国人は肥満や疾病を持っている人が多いと感じる。そういった方へ何か働きかけをしているか。

事務局)

- ・ 外国語版の広報に成人検診と乳幼児健診の日程を掲載するほか、ポルトガル語・スペイン語の通訳を介した相談対応は実施している。
- ・ 母子に関しては、積極的に推進している状況にあるが、成人としても取り組んでいく必要があると感じている。

【歯の健康】

飯田委員)

- ・ 歯の健康は全身の健康につながる。
- ・ 全てのライフステージで健康になるように取り組むのが 8020 運動である。
- ・ 資料の表にあるとおり、中学生の歯肉の炎症所見がない者の割合は 97%、う蝕のない者は 75.1%となっているが、これが 40 歳となると、歯周炎症所見がない者の割合が 42.9%と半分以下に落ちる。
- ・ これがどういうことかということ、歯みがきの習慣が小学校・中学校においてなくなると歯科医師会は考えている。
- ・ 春日井保健所からいただいたデータでは、小牧市は、小学校でお昼に歯みがきしている割合がワースト 3 である。なんとか、小学校までは学校で歯みがきができるような環境整備について、学校歯科医と連携しながら前向きに考えていただきたい。
- ・ 小学校、中学校のデータだけをみればそこまでむし歯が多いはわけではないが、その後のことを考えて学校で歯みがきができるような体制を整えていただきたい。

中川委員)

- ・ 定期健康診断の中の歯科健診でも歯科医師会の先生方にご協力いただき、口腔ケア等を含めてご指導をいただいているところではあるが、市の行政の立場としてどのようにこれを啓発しながら実践していくのかという問題が出てくると思う。
- ・ 貴重なご意見として、今後は調査研究しながら検討してまいりたい。

【その他自由意見】

木全委員)

- ・ 休養・こころの健康部会の指標で、「テレビや DVD、スマホ等の視聴時間が 2 時間未満の子どもの割合」が 60%を目指すとなっているが、コロナの関係で、世の中はリアル開催よりリモート開催が増えている。大学では前期はほぼ 100%リモート講義となっている。
- ・ アプリの活用など全体的に増えており、アプリを使うということはスマホを使うということで、育児についてもアプリが使われる。
- ・ アプリの活用は利点もあるが、1 日中リモート開催の会議に出席していると疲れを感じる。
- ・ 視力にも影響することから、子どもだけでなく大人にとっても問題になってくるのではないかと感じる。

事務局)

- ・ スマホ等の使用については、コロナ禍でステイホームということでリモートワークであったり、色々なアプリなどメディアの利用が多くなっている状況である。
- ・ この指標については、乳幼児健診における保育状況の中からとらえた指標となっている。子育てにスマホが使われる方もいるが、子どもたちとのふれあいを大切にしてほしい時期でもあるため、この指標を上げている。

(3) その他

- ・ 議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。
- ・ 次回は来年2月の開催を予定しており、森会長と相談の上、追って通知させていただく。

3. 閉会